

音楽科学習指導案

令和4年5月24日(火) 第5校時 第6学年2組(第2音楽室) 指導者 稲森 雅明

【題材】和音の美しさを味わおう A表現(3) ア(1), イ(1), ウ(1)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	・曲想と和音の響きとの関わりの理解, 和音と旋律を合わせて音楽をつくる技能	・曲想を表すために, 和音と旋律を合わせて音楽をつくることについて思いや意図をもつ力	・進んで演奏したり, 旋律をつくったりしながら, 和音の響きのよさや美しさを味わおうとする態度
子どもの実態	・長調の和音の響きや移り変わりについて聴き取り, 旋律に合わせて, 長調の和音を鍵盤で演奏することができる。 ・曲想と長調や短調の和音の響きとの関わりを理解して, 音楽づくりをするには至っていない。	・曲想を表すために, 強弱や音色, 音の重なりを工夫して音楽表現をすることについて, 思いや意図をもてるようになってきている。 ・和音の響きや旋律の動きを曲想と結び付けて音楽づくりをすることについて, 思いや意図をもつまで至らない子どもがいる。	・合唱や合奏を通して, 音の重なりを味わうことができる。 ・和音の響きのよさや美しさを味わえていない子どもや, 曲想を表す上で和音の響きが重要であることに気付いていない子どももいる。
価値	・和音は様々な曲で, 曲想を生み出す土台となるものである。多くの曲で使われているものの, 子どもたちは主旋律を表現したり聴き取ったりすることに集中してしまい, 和音の響きにまで意識を向けたり重なる音を捉えたりするのは難しい。『星空はいつも』は, 3つの旋律の重なり合う曲である。それらの旋律を重ねて歌う中で, 3つの音が重なり合う和音の響きや, 和音の進行していく響きを味わうことができる。『雨のうた』は調性に移り変わっていく曲である。伴奏が, それぞれの調性の和音でできている, 旋律に重なる和音の響きに意識を向けられる。これらの曲を表現する際に, それぞれの曲を自分のイメージや感情と結び付けながら表現することで, 長調や短調の響きと曲想との関わりを, 自分なりの価値観をもって捉えられる。そして, 表したい曲想を基に音楽をつくる際に, 旋律にI-IV-I-V₇-Iの和音を重ね合わせながらつくすることで, 和音の響きが曲想を豊かにしていることを実感し, 和音の響きの美しさを味わうことができる。そして, 自分の価値をもとに生まれた音楽を, 友達と共に思いや意図に合う音楽へつくり上げる喜びを味わうことができる。 ・和音の響きを捉えたり和音伴奏をしたりする際に, ICT機器を使うことにより, 選択した和音の音やつくった旋律を音楽表現の技能の差に関わらず, 繰り返し演奏したり聴いたりできる。そのため, 曲想と和音の響きの関係を理解したり, 和音の響きと旋律を合わせて音楽をつくったりできる。	・音楽づくりをする際に, 「学校生活」をテーマにすることは, 共通の経験を基にして表したい曲想を考えることができ, 表したい曲想と自分や友達の経験とを結び付けることができる。そのため, 自分たちのテーマを表すための様々なアイデアを考えたり, 和音の響きや旋律の動きと曲想とをつなげることについて思いや意図をもったりできる。	・合唱や合奏を通して, 「長調と短調の和音の響きについて知る」「知ったことを生かして, 思いや意図に合った音楽をつくる」という段階的な学習の過程は, 知覚と感受の両面から和音の響きについて触れることができる。そして, 和音の響きの美しさを味わおうとする態度を養うことができる。
見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ, 曲を和音の響きやその働きの視点で捉え, 自己のイメージや感情, 経験と結び付けて合唱や合奏をしたり, 旋律を考えたりすること。		
今後の学習	中学1年「旋律創作」でI-IV-V-Iの和音を使って, 自分のイメージに合う旋律をつくる学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	歌や演奏で表現しながら曲想と和音の響きとの関係を理解し、和音と旋律を合わせて音楽をつくることを通して、曲全体の長調と短調の和音の美しい響きを味わう。			
評価 規 準	(①知・技) 曲想と和音の響きとの関わりを理解し、和音と旋律を合わせて音楽をつくっている。 (②思・判・表) 曲想を表すために、和音と旋律を合わせて音楽をつくることについて思いや意図をもっている。 (③主体的態度) 進んで演奏したり、音楽をつくったりしながら、和音の響きのよさや美しさを味わおうとしている。			
教材	・星の世界 川路柳虹 日本語詞 コンバース 作曲／飯沼信義 編曲 ヘ長調 4分の4拍子 ・雨のうた 鹿谷美緒子 作曲 イ短調 ハ長調 4分の4拍子 ・和音の音で旋律づくり			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
で あ う	1	○旋律に合う和音を探したり、和音に合わせて旋律をつくったりし、学習のめあてをつかむ。 —学習のめあて— 長調と短調の和音の響きの特徴を調べ、分かったことを生かして音楽をつくろう	○長調と短調の和音の響きの雰囲気の違いや、和音の響きに合う旋律の音と合わない音とがあることに気付けるように、旋律に様々な和音を即興的に当てはめて、感じたイメージを話し合う機会を設定する。	◇長調と短調の和音の響きや、和音と旋律との関わりについて関心をもち、和音の響きについて分かったことや疑問に思ったことを発言したり、記述したりしている。 <発言・ワークシート③>
	追求する	1 ○『星の世界』を合唱する。 2 ○『雨のうた』の伴奏をキーボードやタブレットで演奏する。 2 ○グループのテーマを考え、I・IV・V ₇ の和音から音を選んで、音楽づくりをする。 1 ○和音の響きを感じ取りながら、グループのテーマを表すための音楽をつくる。 (本時)	○長調の和音の響きや、音の重なりを聴き取れるように、一人一人が和音の中の一音を担当し、重ね合わせて歌う機会を設定する。 ○短調の和音の響きを聴きながら、全員が伴奏をできるように、和音の音が鳴るScratchを用意する。 ○和音の音の響きと旋律の動きを結び付けられるように、旋律をつくる際に、グループの中で、和音を流す役割の子どもと、旋律を考える役割の子どもを設定する。 ○グループのテーマを表す達成度を判断できるように、タブレット上で旋律や和音を共有し、比較演奏しながら、つくった音楽とテーマの関係について話し合う機会を設定する。	◇長調の和音の響きの特徴について気付いたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・ワークシート①> ◇短調の和音の響きの特徴について気付いたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・ワークシート①> ◇グループの表したい音楽のテーマや、和音と旋律を合わせて音楽をつくることについて、思いや意図を、記述したり発言したりしている。 <表現・ワークシート②> ◇グループのテーマを表すために、I-IV-I-V ₇ -Iの和音に合わせて旋律を変えたり、使う音や和音伴奏等について発言したりしている。 <発言・ワークシート②>
・ま と め る	1	○I・IV・V ₇ の和音からつくった音楽を発表し合う。	○長調と短調の和音の響きを感じ取りながら音楽表現を工夫できたことや、自分がつくった音楽に対する思いを自覚できるように、振り返りシートを用意する。	◇自他が発表した音楽を聴き、和音の響きのよさや曲想と和音の響きの関係について記述している。 <振り返りシート③>

本時の学習（7／8時間目）

ねらい グループのテーマを表すために、友達とアイデアを出し合って和音と合わせながら旋律をつくったり、つくった旋律を比較したりする活動を通して、自分たちの思いや意図を生かした音楽をつくることができる。

評価項目 グループのテーマを表すために、Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ-Ⅴ₇-Ⅰの和音に合わせて旋律を変えたり、使う音や和音伴奏等について発言したりしている。

<発言・ワークシート②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 - グループのテーマ「運動会」を表すために、和音を聴きながら場面ごとに細かいリズムや上がっていく音の動きを工夫して旋律をつくったな。 - 通して聴いてみると、走る前のドキドキ感や、走り切った後の勝って喜ぶ感じが出せるといいと思ったよ。旋律に使う音や和音伴奏を工夫して、もっとテーマを表せる音楽をつくりたいな。（目的意識）	○前時で、グループの一人一人がつくった旋律をつなげて、Ⅰ-Ⅳ-Ⅰ-Ⅴ₇-Ⅰの和音伴奏と合わせて音楽をつくったことを想起できるように、前時につくった旋律を和音伴奏とともに演奏するよう促す。 ○グループのテーマを表現するために、音の動きや和音伴奏等を工夫しながら、和音の響きと旋律を合わせて音楽をつくるという見通しをもてるように、グループの音楽の達成度と改善点を問いかける。
めあて：和音と旋律を合わせながら、リズムや音の動きを工夫して、テーマを表す音楽をつくろう	
2 グループのテーマを基に、和音に合わせて試奏しながら旋律を考える。 - 前回つくったアイデアノートには、ドキドキする心臓の動きを上下の動きで表したらどうかと書いてあるよ。試しにつくって演奏してみよう。 - 高い音と低い音を交互にしたらドキドキ感が表せたね。さらに、走る前のドキドキしている感情を表すために、旋律を短調にしてみたらどうか。途中で和音を変えてみようよ。 - 短調にしたら、ちょっと暗くなり過ぎちゃったね。長調のまま、和音伴奏の仕方を、4分音符から8分音符にして連打してみたらどうか。 - 比べてみたら、最初の旋律や和音伴奏よりも、旋律を交互に和音を連打した方が、心臓のドキドキみたいな感じがしていいね。 - 友達のグループは「赤城林間学校」のテーマで、カレーを食べるわくわく感を、音をだんだん上げて表現していたよ。私たちも、勝って喜んでいる気持ちを、同じように音を上げて表してみようよ。 - 和音の中の音から高い音と低い音を交互に使ってドキドキ感を出したり、だんだん音を上げていって喜ぶ感じを出したりしたら、テーマを表す音楽がつくれたよ。和音伴奏を8分音符で連打して走る前のドキドキする感じも出せたね。（目的を達成した意識）	○グループのテーマを表現するための、和音や旋律に対するアイデアを見付けられるように、テーマから浮かぶ場面や感情、音の動きを記したアイデアノートの記述を見返すよう促す。 ○テーマの雰囲気に合わせて調性を選択できるように、長調と短調の和音の両方を使っているグループの音楽を例示し、調性の響きの違いによる曲想の変化について感じたことを問いかける。 ○音の長さによる和音の響きの違いを音楽に生かせるように、複数の和音伴奏の仕方による感じ方の違いをまとめた模造紙を提示し、テーマに合わせて使うよう助言する。 ○和音と旋律を合わせてつくった音楽を比較し、自分たちのグループのテーマに近付いているか判断できるように、演奏を画面録画したものをタブレット上で共有し、聴き比べた中で、思いや意図に合う音楽を選択するよう促す。 ○別のグループの演奏のアイデアを、自分たちのグループの工夫に生かせるように、友達の演奏を聴いて、よいと思ったところや真似したいと思ったところをグループで話し合うよう促す。 ○テーマを表すための旋律や和音伴奏の工夫を考えられたことを自覚できるように、音楽表現の達成度や工夫した内容を問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 工夫してつくった旋律と和音の伴奏と一緒に演奏したら、自分たちの「運動会」のテーマを表す音楽がつくれて嬉しいな。友達にアイデアを出してもらったり、一緒に試したりしたらよりテーマに近付いた気がするよ。自分たちのつくった音楽を友達にも聴いてほしいな。	○和音を基にして試奏しながら和音に合わせて旋律を考えたり、友達とアイデアを出し合ったりしたこと、テーマを表す音楽がつくれたことを実感できるように、和音と旋律を合わせて思いや意図を生かした音楽をつくれたことを称賛する。